

はだの水道ビジョン(素案)修正箇所一覧

資料3

頁	項目	修正内容	修正後	修正前
2	2はだの水道ビジョンの役割と位置づけ	文章修正	また、本市においても人口減少が進んでおり、 <u>高齢化やライフスタイルの変化などと合わせて、</u>	また、高齢化やライフスタイルの変化などにより、本市においても人口減少が進んでおり、
8	(2)取水施設	文章追加	また、 <u>地下水の水収支は、表2-4に示すとおり黒字を維持しています。なお、取水場の一覧は表2-5に示すとおりです。</u>	また、取水場の一覧は表2-4に示すとおりです。
8		表追加	<u>表2-4 地下水涵養量・揚水量による水収支の推移</u>	—
13	4経営比較分析	項目追加	<u>4 経営比較分析</u>	—
13		文章追加	<u>平成29年度決算における本市の水道事業と全国及び類似団体との経営比較は次のとおりです。</u>	—
13		図追加	<u>経営比較分析表(平成29年度決算)</u>	—
19	4経営の健全化に向けた対応 図4-6	図注釈修正	<p>※ 上記の予測イメージの主な算出条件は、以下のとおりです。</p> <p>○人口について ・行政区域内人口は、国立社会保障・人口問題研究所が公表している推計とし、令和26年以降はそれ以前の変動率を伸ばして算出しています。</p> <p>○収入について ・料金改定を行わず、現行料金を一定と仮定して算出しています。 ・国交付金は平成26年から30年の実績をもとに、一定の割合で算出しています。</p> <p>○費用について ・維持管理費については、平成30年度までは実績、令和元年度は予算、令和7年までは現行の水道事業計画の数値とし、令和8年以降は、10年ごとに3%増として算出しています。 ・建設改良費は、令和7年までは現行の水道事業計画の数値とし、令和8年以降は、資産台帳を基に、耐用年数を迎える資産の取得価格を現在価格に置き換えた費用を積み上げて算出しています。</p>	<p>(注) 純損益の算定根拠とした行政区域内人口は、国立社会保障・人口問題研究所が公表している推計とし、令和26年以降は、それ以前の変動率を伸ばして算定した推計値とする。</p> <p>予測値は、現行の料金を固定するなどの条件に基づき収入を算出し、施設を法定耐用年数で単純更新することや維持管理費を一定とするなどの条件に基づき費用算出した場合のイメージ。</p> <p>なお、第7章の水道事業計画の策定では、総合計画のすう勢人口の公表数値により推計。</p>
26	(2) 県水の負担軽減 ア課題	文章追加	県水受水費の負担は、 <u>必要不可欠であるものの、</u> 小規模水道事業体である本市の経営にとって大きなものです。	県水受水費の負担は、小規模水道事業体である本市の経営にとって大きなものです。
26	(2) 県水の負担軽減 イ取組みの方向	誤記修正	神奈川県内広域水道企業団	神奈川県広域水道事業団

はだの水道ビジョン(素案)修正箇所一覧

資料3

頁	項目	修正内容	修正後	修正前
27	(3) 水道水源への更なる取組み イ取組みの方向	文章修正	必要に応じて 水源の統廃合 や井戸の改良工事(深井戸化)を実施していきます。	必要に応じて井戸の改良工事(深井戸化)を実施していきます。
30	(1) 水質管理の強化 ア課題	文章修正	本市には、小規模の取水場が多数あり、 現在の水質管理体制を維持するうえで多額のコストが発生しており 、水源から給水栓までの連続した水質管理の一元化が課題となっています。	本市には、小規模の取水場が多数あり、水質を管理するための体制を維持するためには多額のコストが必要となるため、水源から給水栓までの連続した水質管理の一元化が課題となっています。
30	(1) 水質管理の強化 イ取組みの方向(ア)	文章修正	水道管の管末における水質検査方法 や 、水質管理の確実性を確保するための取組みを検討し、進めていきます。	水道管の管末における水質検査方法を検討し、水質管理の確実性を確保するための取組みを検討し、進めていきます。
34	(1) 管路の維持管理の強化 イ取組みの方向(ア)	文章修正	利用者の安心・安全を確保するための効果的かつ効率的な手法や 包括委託などを含めた 体制の整備について検討します。	利用者の安心・安全を確保するための効果的かつ効率的な手法や体制の整備について検討します。
34	(2) 施設の維持管理の強化と効率化 ア課題(イ)	項目追加	上下水道局に配置される職員数は限られているため、人材の効率的活用や人員の補完、コスト削減に向けて、包括委託、新たなPFI手法等の公民連携手法の更なる検討が求められています。	—
34	(2) 施設の維持管理の強化と効率化 イ取組みの方向(ウ)	項目追加	持続的な健全経営の観点から、人材の効率的活用や人員の補完、コスト削減が求められるため、新技術の導入や神奈川県が令和4年度までに策定予定の「広域化推進プラン」の進捗を踏まえながら、包括委託等さらに進んだ公民連携の検討を行っていきます。	—
48	(1) 健全の経営化 イ取組みの方向(イ)	文章修正	必要な財源を確保するための適切な水道料金のあり方について 検討するとともに、新たな財源確保の可能性 を検討し、財政計画を策定します。	必要な財源を確保するための適切な水道料金のあり方について検討し、財政計画を策定します。
48	(1) 健全の経営化 イ取組みの方向(エ)	項目追加	維持管理費を削減するとともに、遊休地の利活用や広域化・共同化、 新技術の導入 、民間委託などあらゆる経費削減策を検討し、	維持管理費を削減するとともに、遊休地の利活用や広域化・共同化、民間委託などあらゆる経費削減策を検討し、
50	(2) 親しみのある水道事業の推進 オ	文章追加	本市の地下水は、昭和60年に環境省が全国の清澄な水を広く紹介することを目的に選定した名水百選に、秦野盆地湧水群として選ばれています。本市では、「名水の里・はだの」を市内外に広くPRするとともに、災害時の非常用飲料水の1つとして各家庭で備蓄していただくことを目的に、水道水を原料としたペットボトル「おいしい秦野の水・丹沢の雫」を平成20年度から製造・販売しています。	「名水の里・はだの」を市内外に広くPRするとともに、災害時の非常用飲料水の1つとして各家庭で備蓄していただくことを目的に、水道水を原料としたペットボトル「おいしい秦野の水・丹沢の雫」を平成20年度から製造・販売しています。

はだの水道ビジョン(素案)修正箇所一覧

資料 3

頁	項目	修正内容	修正後	修正前
51	(2)親しみのある水道事業の推進力	項目追加	<u>平成28年3月に環境省により実施された名水百選選抜総選挙において、本市のボトルドウォーター「おいしい秦野の水・丹沢の雫」が「おいしさが素晴らしい名水部門」で1位を受賞しました。</u> <u>その結果、ペットボトルの販売本数は図6-17に示すとおり大きく増加しました。</u>	—
52	(1)料金納付の利便性やサービスの向上課題(ア)	文章修正	特に生活基盤の弱い利用者にとっては負担感が強くなるため、費用対効果を検証しながら、 <u>スマートメーターの導入なども含めて</u> 請求のあり方を検討する必要があります。	特に生活基盤の弱い利用者にとっては負担感が強くなるため、費用対効果を検証しながら、請求のあり方を検討する必要があります。
52	(2)親しみのある水道事業の推進イ取組みの方向(ア)	文章修正	水道水源や施設を見学する機会を増やし、 <u>新たなPR手法を検討するなど</u> 水道事業の現状や役割を理解いただけるよう努めます。	水道水源や施設を見学する機会を増やし、水道事業の現状や役割を理解いただけるよう努めます。
53	—	ペットボトルの販路拡大に関する水利権について、次の2点から現時点で修正は行っていません。 ①水道事業の附帯事業と位置づけているため ②水利権が水使用規則に基づく河川の流水を占有する権利であるが、本市ペットボトルは地下水を水源としているため		
56	(1)組織体制の強化と委託化の推進イ取組みの方向(イ)	文章修正	再任用や会計年度任用職員制度を活用し、熟練職員や退職者が培ってきた経験や技術を <u>踏まえたマニュアルを作成することなどにより</u> 、経験の浅い職員に伝え、技術の継承を図ります。	再任用や会計年度任用職員制度を活用し、熟練職員や退職者が培ってきた経験や技術を経験の浅い職員に伝え、技術の継承を図ります。
56	(2)経費の削減イ取組みの方向(ウ)	項目追加	<u>予防保全型の維持管理により、可能な限り施設の長寿命化を図るとともに、広域化・共同化や公民連携手法、新技術の導入などを検討し、経費削減に努めていきます。</u>	—
57	第8章計画の推進にあたって	文章追加	<u>また、水道事業計画については、料金算定期間(5年)と合わせて取り組みの成果や効果について検証し、内容の見直しを行います。</u>	—
59	第8章計画の推進にあたって図8-1	図修正	図8-1PDCAサイクルのうち、 <u>checkの際に上下水道審議会と連携する旨</u> を追記	—

※頁番号については、修正後の冊子による。